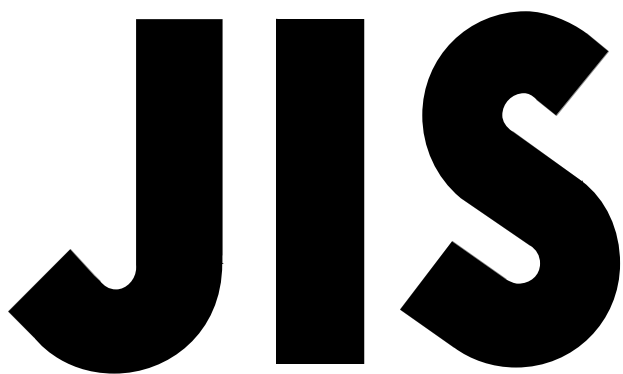




高圧及び特別高圧進相コンデンサ 並びに附属機器－第 2 部：直列リアクトル

JIS C 4902-2 : 2010

(IEEJ/JSA)

平成 22 年 1 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 電気技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	小 田 哲 治	東京大学
(委員)	池 田 久 利	IEC/SB1 委員 (東京大学)
	大 石 奈津子	財団法人日本消費者協会
	長 田 明 彦	社団法人日本配線器具工業会
	香 川 利 春	東京工業大学
	亀 田 実	社団法人日本電線工業会
	近 藤 良太郎	社団法人日本電機工業会
	前 田 育 男	IDEC 株式会社
	佐々木 喜 七	財団法人日本電子部品信頼性センター
	住 谷 淳 吉	財団法人電気安全環境研究所
	島 田 敏 男	社団法人電気学会
	高 橋 健 彦	関東学院大学
	京 橋 昌次郎	社団法人電池工業会 (パナソニック株式会社エナジー社)
	豊 馬 誠	電気事業連合会
	鈴 木 篤	社団法人日本電球工業会 (日立ライティング株式会社)
	徳 田 正 満	東京都市大学
	中 村 禎 之	社団法人日本電機工業会
	飛 田 恵理子	東京都地域婦人団体連盟
	山 田 秀	筑波大学
(専門委員)	安 藤 栄 倫	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 22.1.20

官 報 公 示：平成 22.1.20

原 案 作 成 者：社団法人電気学会

(〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2 HOMAT HORIZONビル TEL 03-3221-7201)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：電気技術専門委員会 (委員長 小田 哲治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 使用状態	3
5 過負荷使用条件	4
6 種類	5
7 定格	5
8 性能	8
9 構造	9
10 試験方法	10
11 検査	11
12 製品の呼び方	11
13 表示	12
解 説	13

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人電気学会 (IEEJ) 及び財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。これによって **JIS C 4902 : 1998** は廃止され、直列リアクトルに関する部分を分割して制定したこの規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権及び出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS C 4902 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS C 4902-1 第 1 部：コンデンサ

JIS C 4902-2 第 2 部：直列リアクトル

JIS C 4902-3 第 3 部：放電コイル

高圧及び特別高圧進相コンデンサ並びに附属機器— 第 2 部：直列リアクトル

High voltage power capacitors and attached apparatus— Part 2 : Series reactors

序文

この規格は、従来、**JIS C 4902 : 1998**（高圧及び特別高圧進相コンデンサ及び附属機器）の**附属書 1**で規定していたが、附属書を独立させて制定した日本工業規格である。

1 適用範囲

この規格は、力率改善、電圧調整などの目的で、交流 3 300 V 以上の回路に使用し、**JIS C 4902-1**に規定する高圧及び特別高圧進相コンデンサ又はコンデンサ群（以下、コンデンサという。）に直列に挿入して、回路電圧の波形のひずみを軽減させ、かつ、コンデンサ投入時の突入電流を抑制する目的に使用する直列リアクトル（以下、リアクトルという。）について規定する。

注記 交流 3 300 V 未満の回路で使用するリアクトルは、この規格を準用してもよい。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS C 2320 電気絶縁油

JIS C 4902-1 高圧及び特別高圧進相コンデンサ並びに附属機器—第 1 部：コンデンサ

JIS Z 8304 銘板の設計基準

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

3.1

回路電圧

コンデンサを接続する回路の公称電圧。

注記 回路電圧を公称電圧とすることによって、過電圧など不都合が生じる場合には、回路電圧を公称電圧によらなくてもよい。

3.2

定格電圧 (rated voltage of a reactor)

定格周波数の定格電流を流した場合に、一つの相の巻線の両端に現れる電圧。